

一般質問通告書

通告順番 1 番

通告者 豊瀬 和久 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
<p>1. 役場窓口での新型コロナウイルス感染抑止の取り組みとして、行政手続きのオンライン化や税金支払い等のキャッシュレス化を推進すべきではないか</p>	<p>(1) 行政手続きのオンライン化や、キャッシュレス決済は新型コロナウイルス感染抑止の取り組みとともに、町民の利便性向上、職員の業務負荷軽減、コスト削減などの効果が期待できる。早急に民間サービス同様にオンラインやキャッシュレスで完結できる体制を構築する必要がある。</p>	町 長
<p>2. 新型コロナウイルスの感染拡大で、今後も小中学校の休校が想定される。休校中であっても教師から直接教わることができる環境を確保し、学力の維持・向上につなげる取り組みを進めるべきではないか</p>	<p>(1) 今後、第2、第3の新型コロナウイルスの感染拡大の波に備えた対策を早急に行う必要がある。国の2020年度補正予算には、子どもたちに一人一台のパソコンを配備するための予算が前倒しで盛り込まれた。これにはW i F i環境が整っていない家庭にルーターを貸し出すといった支援策も含まれている。このようなI C T環境を整備するための予算措置を積極的に活用して、まずは小学生の高学年や中学生から双方向のオンライン授業が実施できる環境整備を大きく進めることが重要である。</p>	教 育 長

一般質問通告書

通告順番 1 番
 通告者 豊瀬 和久 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
<p>3. 新型コロナウイルスの感染拡大が続いている時でも、自然災害が起こる可能性がある。いま災害が起きれば、避難所で新型コロナウイルスの集団感染が発生する恐れが強い。早急に、避難所の3密を回避する体制を構築すべきである</p>	<p>(1) 地震や水害の際には地域の公民館や小中学校の体育館などを避難所として使用するが、不特定多数の人を収容するので3密となる可能性が極めて高い。集団感染が発生する恐れが強い3密を回避するためにウイルスの特徴を踏まえた新しい生活様式に避難所の環境を改善するとともに、分散避難などの避難体制を住民に周知する必要がある。</p>	<p>町 長</p>
<p>4. 新型コロナウイルス対策など自治体のすべての事業はSDGs（持続可能な開発目標）につながっている。SDGsの考え方を常に念頭に置きながら事業を進めるべきではないか</p>	<p>(1) 職員がSDGsを自覚して事業に取り組めるように各課の看板や受付カウンター、名刺などに業務に関連するSDGsのアイコンを印刷した物を貼るなどSDGsの見える化が必要である。</p> <p>(2) 熊本連携中枢都市圏18市町村で共同策定を予定している地球温暖化対策実行計画では2050年の温室効果ガス排出実質ゼロを目指しているが本町の具体的な実現プランはどのようなものか。</p>	<p>町 長</p>

一般質問通告書

通告順番 2 番
 通告者 三宮 美香 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
<p>1. 長期休校に対する振り返りと今後の体制について</p>	<p>(1) 2月27日の国からの一斉休校要請を受けて始まった臨時休校も、3ヶ月という長期休校を経験することになり、子どもたちも保護者も自粛を守り3ヶ月を耐えて過ごした。この未曾有の事態に対して町と教育委員会も急な対応を迫られながらも子どもたちの安全を第一に試行錯誤されたと思う。今後、来るとされる第2波、また、新たなるウイルス出現や休校を余儀なくされる事態などに備えて、</p> <p>① 今回、PTAとも連携されていたと思うが、子どもたちと保護者・先生の声を、この期間にどう反映させていたのか。</p> <p>② 今回のことを振り返り、今後どのような体制を構築されるのかを確認したい。</p>	<p>町 長 教 育 長</p>

一般質問通告書

通告順番 3 番

通告者 山本 富二夫 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
<p>1. 定住促進補助金制度の創設を</p>	<p>(1) 菊陽町では平成25年度から、定住促進補助金制度を創設されている。大津町も高齢化と過疎化が進む地区を対象として取り組みについての考えを聞きたい。</p>	<p>町 長</p>
<p>2. 上井手公園まわりの環境整備について</p>	<p>(1) 上井手公園が昨年、上井手沿いの旧大津地区公民館分館跡地に完成。J R肥後大津駅から、徒歩で5分以内であり、もう少し活かす環境整備についての取り組みを聞きたい。</p> <p>①裏山の竹林を買収して、桜とつつじの公園化を。</p> <p>②上井手に蛍が舞う環境整備を。</p> <p>③上井手沿いの古い民家の保存と活用を。</p>	<p>町 長</p>

一般質問通告書

通告順番 4 番
 通告者 坂本 典光 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1. 地蔵まつりのあり方	<p>(1) 時代とともに地蔵まつりは変化してきた。最近はお酒の比率が高い、大人のまつりになってきており、今少し子ども中心にできないかという意見が多くある。</p> <p>①現況。</p> <p>②どのようなかたちが理想と考えるか。</p> <p>③理想に向けて行動する意思はあるか。</p>	町 長 教 育 長
2. 行政が事務ミスを犯さないための対策について	<p>(1) 平成30年不適切な事務処理等に係る再発防止策がとられたが、その後不適切な事務処理は散発的に起こっている。遺憾の言葉を残して前副町長は任期を全うされた。</p> <p>①防止策に問題があったのか。</p> <p>②今後、新副町長を中心にどのように対策を立てられるのか。</p>	町 長

一般質問通告書

通告順番 4 番
 通告者 坂本 典光 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
<p>3. 窓口業務の重要性</p>	<p>(1) 職員は町民に対するサービス業務であることを自覚して、合理的に懇切丁寧に接すべきである。担当部署の業務を深く理解していないと合理的な説明はできない。</p> <p>①窓口業務教育は実施しているか。</p> <p>②特に新人職員は社会の価値観に疎いから、特別に教育が必要と思われる。言葉だけの教育ではなく、実地教育である。</p>	<p>町 長</p>

一般質問通告書

通告順番 5 番
 通告者 荒木 俊彦 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1. 新型コロナウイルス感染症支援策	(1) 熊本地震復興基金を町民支援に。 (2) 国保世帯への税軽減が必要。	町 長
2. 清正公道埋立の経過と今後	(1) ミルクロード沿いの清正公道の谷間が埋め立てられた。熊本地震による国道代替指定によって、やむを得ないことだったと思うが、埋蔵文化財包蔵地がいとも簡単に埋め立てられた。許可された経過の説明を求める。また今後の活用についてどう考えるか。	町 長 教 育 長

一般質問通告書

通告順番 6 番
 通告者 佐藤 真二 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
<p>1. コロナとの共存、コロナ後の「新しい生活様式」に町はどう取り組むか</p>	<p>(1) コロナウイルスとの共存、あるいは新たな感染症に備え生活様式の見直しが求められている。事業（業務）の運営も同様であり、それにはDXへの対応も求められる。</p> <p>①デジタル手続法への取り組み。</p> <p>②勤務形態の多様化への対応などDXによるBCPの見直し。</p> <p>③住民サービスの提供のかたちや町有施設の設備の見直し。</p> <p>④学校運営の在り方を見直し。</p> <p>⑤職員のリテラシーの変革。</p> <p>※DX＝デジタルトランスフォーメーション（デジタル技術による社会変革）</p>	<p>町 長 教 育 長</p>
<p>2. 情報公開が全く進んでいない</p>	<p>(1) 以前から求めている情報公開が未だに進展しない。昨年6月を含め、これまで何度も同じ質問をしている。行政の説明責任を果たすという意味での情報公開はいつできるようになるのか。</p>	<p>町 長</p>

一般質問通告書

通告順番 6 番
 通告者 佐藤 真二 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
<p>3. 子どもたちの努力と犠牲に どう報いるか</p>	<p>(1) 感染拡大対策のため、子どもたちは大変な努力を強いられ、犠牲を払っている。このことは子どもたちに大きな成長と誇りを与える反面、厳しい喪失感や虚脱感を生んでおり、それはこれからも続く。国は子どもたちに報いる取り組みのメニューを示している。町ではどう取り組むか。</p>	<p>町 長 教 育 長</p>

一般質問通告書

通告順番 7 番

通告者 山部 良二 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1. 観光振興や子どもの育みについて	<p>(1) 新型コロナウイルス感染拡大によるインバウンド需要の蒸発が顕著に表れている現在、国内からの観光客を呼び込む地域の魅力を発信していく必要がある。これらのことを踏まえ世界かんがい施設遺産を活用した観光振興や子ども達の育みを住民と行政との協働により、アイデアを集め中長期的な計画を立案していく必要があると考察するが、町としての考えを伺う。</p>	町 長 教 育 長
2. 大津町子どもの生活に関する実態調査について	<p>(1) 本町における子どもの貧困の現状と支援は。</p> <p>(2) 今後、コロナによる「世界大恐慌」の再来が予測される中、一人親世帯（シングルマザー等）の貧困率が上昇することが想定される。これを踏まえ条件が厳しいと思われる生活保護制度や社会福祉協議会「緊急小口資金」の運用緩和、及び制度の積極活用の推進又、申し込み数や不受理数を伺う。</p> <p>(3) 貧困が進めば、子どもの虐待が増加を示すデータがある。貧困線を下回る層では、歯磨きを1日一回およびほとんどしない子どもが県平均10.3%を大きく上回る19.3%もいる。この中にネグレクトや虐待の可能性のある子ども達がいるのではないかと、現状と対策は。</p>	町 長 教 育 長

一般質問通告書

通告順番 8 番

通告者 永田 和彦 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1. 役場機能の充実と向上について	<p>(1) 時代に沿ってRPA（ロボットを使ったオートメーション）に取り組み役場機能の効率化を掲げられるのは良いが、その手前に人事体制を整えなければならない。RPAは単純ではあるが人間が行えば時間がかかることの効率化と理解するが、人員削減には繋がらないし一つの軌道に乗せた仕事しかできず、今の時代においては回り道になりかねない代物と思える。未だAI（人工知能）を使うには至ってないが、次を見据えた取り組みでないと逆に単純システムに振り回される可能性も考えられる。よって優れたSE（システムエンジニアやプログラマー）を擁する体制が今後の未来を形成すると考えられる。</p>	町 長

一般質問通告書

通告順番 9 番

通告者 金田 英樹 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
1. 情報発信と周知の在り方	<p>(1) 必要な情報を迅速に、あるいは適切なタイミングで発信することは、平時には住民サービスの向上、有事には住民の安全・安心にも直結する。また、正確な情報を分かりやすく速やかに伝えることは、未然に住民からの問い合わせや、記入書類などの不備発生を防ぐことに繋がり、住民と職員双方の手間や業務量を減らすことができる。さらに、検診の勧奨やボランティアの呼びかけ等の行動を促す必要がある施策においては訴求力のある表現で発信することで、より多くの住民の行動に繋げることができる。ホームページやLINE、その他各種発送書類、チラシなど、情報発信の在り方の重要性を改めて認識し、一層力を入れる必要がある。情報は発信すること自体が目的ではない。目的の明確化と設定、そして民間企業並みの工夫と戦略が必要である。</p> <p>以上を踏まえ、以下の項目を中心に町長の考えを問う。</p> <p>①新たに導入した LINE の運用。</p> <p>②不備や照会を減らす書面づくり（各種記入様式、案内・説明文章など）。</p> <p>③行動に繋がる訴求力のある書面づくり（表現・レイアウトなど）。</p>	町 長

一般質問通告書

通告順番 9 番

通告者 金田 英樹 議員

質問事項	質問の要旨	質問の相手
<p>2. スマート自治体とウィズコロナを見据えた行政事務の在り方</p>	<p>(1) ICTの発展や人口減少が進む中、「スマート自治体」という言葉が一つの重要なキーワードになっている。ここで述べるスマート自治体とはAI・RPAなどのICT技術も活用し、人口減少が深刻化しても自治体が持続可能なかたちで行政サービスを提供し続け、住民福祉の水準を維持向上させながら、職員を事務作業から解放して職員でなければならない、より価値のある業務に注力することで、効率的かつ住民満足度の高い業務を行える自治体を指す。さらに、各種事務手続きのオンライン化やキャッシュレス決済などは住民が自宅にいながら、あるいは窓口に訪れることなく、手続きを完結することができ、住民の利便性向上にも繋がる。これらを高い次元で実現するためには、個々の職員のICTスキル・リテラシー向上、実務を踏まえて全体の在り方を設計・統括できる人材の任用が不可欠である。</p> <p>以上を踏まえ、以下の項目を中心に町長の考えを問う。</p> <p>①職員のICTスキルとリテラシーの底上げ。</p> <p>②CIO（最高情報責任者）の任用。</p> <p>③デジタルネイティブである若手を中心とした職員提案制度やタスクチームの創設。</p>	<p>町 長</p>